

川崎駅周辺総合整備計画

令和8（2026）年3月
川崎市

目次

- 1 総論
 - (1) 改定の主旨
 - (2) 計画の位置づけ
 - (3) 計画期間

- 2 駅周辺のまちづくりの状況
 - (1) 計画期間内での主な取組と効果
 - (2) 社会環境の変化
 - (3) 駅周辺のまちづくりの状況
 - (4) 市民意見等の把握
 - (5) 計画改定にあたっての主な視点

- 3 目指す市街地像・まちづくりの基本方針と基本施策等
 - (1) 基本方針・基本施策等の体系
 - (2) ゾーニング図

- 4 計画期間の取組等

- 5 計画の推進に向けて

参考資料

- 参考1 まちづくりを取り巻く環境変化とこれまでの取組
- 参考2 市民意見等の把握

1 総論

(1) 改定の主旨

川崎駅周辺地区は、川崎区及び幸区に位置し、多摩川を挟んで東京都大田区に隣接しています。東京駅から南西約20km、横浜駅から北東約10kmの距離にあり、東京と横浜の中間に位置する交通の要衝です。

東京圏国際戦略特区、京浜臨海部ライフノベーション国際戦略総合特区内に位置しており、さらに都市再生緊急整備地域にも位置づけられ、国際競争力の強化と都市機能の高度化が求められる重要な拠点となっています。

また、市全体の活力を高め持続可能なまちづくりを牽引する本市の玄関口である広域拠点として、これまでのストックや羽田空港との近接性など地理的優位性を活かし、都市機能の集積や更新、さまざまな人々が集い交流が生まれる空間の整備と活用、交通結節機能の強化等、更なる魅力の向上を計画的に進めていくことが求められています。

本市では、平成18（2006）年4月に「川崎駅周辺総合整備計画」を策定し、平成28（2016）年3月の改定を経て、川崎駅北口通路の整備、大宮町西口地区における民間活力を活かした土地利用の誘導など、段階的に計画的なまちづくりを進めてきました。

前回の計画改定から約10年が経過し計画期限を迎えるとともに、少子高齢化が進行する中、持続可能な都市機能の維持・確保が大きな課題となっています。さらに、新型コロナウイルス感染症を契機とした生活様式の変容（アフターコロナ）、デジタル技術を活用した取組（DX）の推進、「人と自然が共生する幸福な社会の実現」に向けて目標とすべき「みどりの将来像」の策定や心の豊かさ（ウェルビーイング）を重視した居心地のよい都市空間づくりに加え、脱炭素社会の実現やSDGsの達成、グリーントランスフォーメーション(GX)、再生可能エネルギーの活用など、環境都市を目指す取組が強く求められています。

こうした社会環境や駅周辺を取り巻く状況変化などを踏まえ、これまでの取組の成果を活かしつつ、新たな課題等に対応した多様な魅力と活力にあふれたまちづくりを推進するため、本計画を改定します。

<図 川崎駅周辺地区の位置>



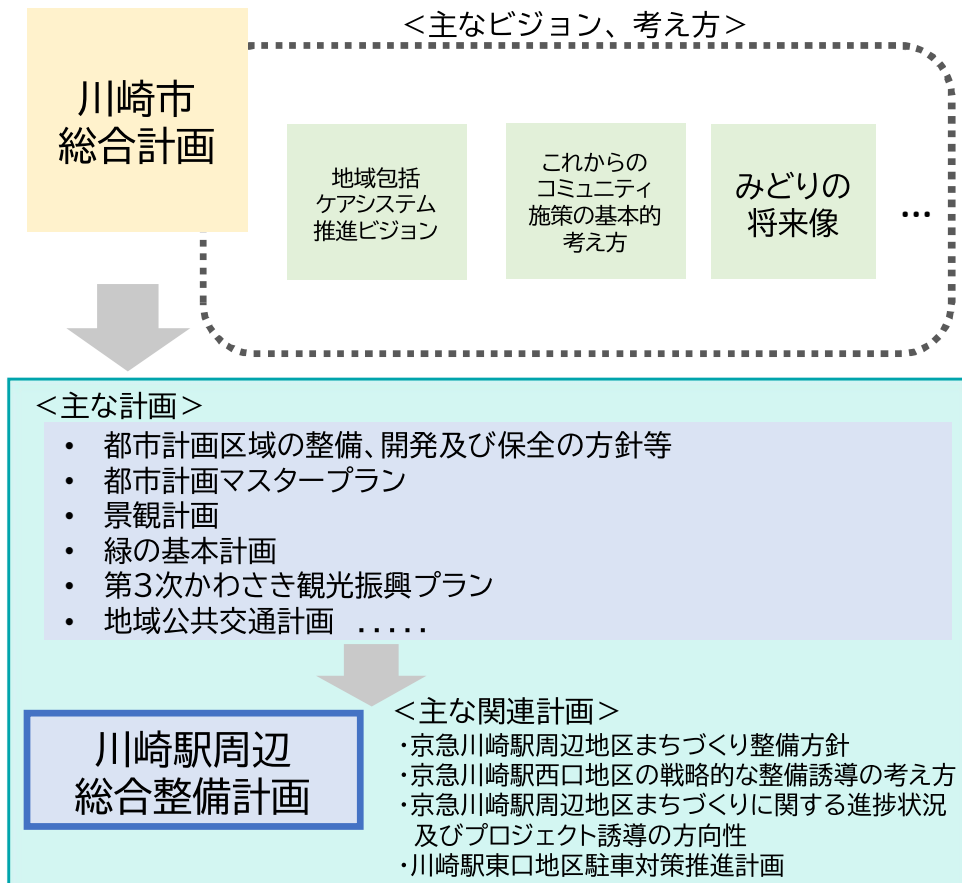
1 総論

(2) 計画の位置づけ

本計画は、川崎駅周辺地区におけるまちづくりの方向性等を示す計画です。

「川崎市総合計画」を踏まえるとともに、「都市再開発の方針」や「都市計画マスタープラン」等の計画とも連携した計画として位置づけます。

<図 計画体系図>



(3) 計画期間

計画期間は、「川崎市総合計画」と整合を図り、令和8（2026）年度から12年間（令和19（2037）年度まで）を対象とします。

計画の推進に向けては、「川崎市総合計画実施計画」と整合を図り、概ね4年ごとに計画の取組内容の時点更新を行います。

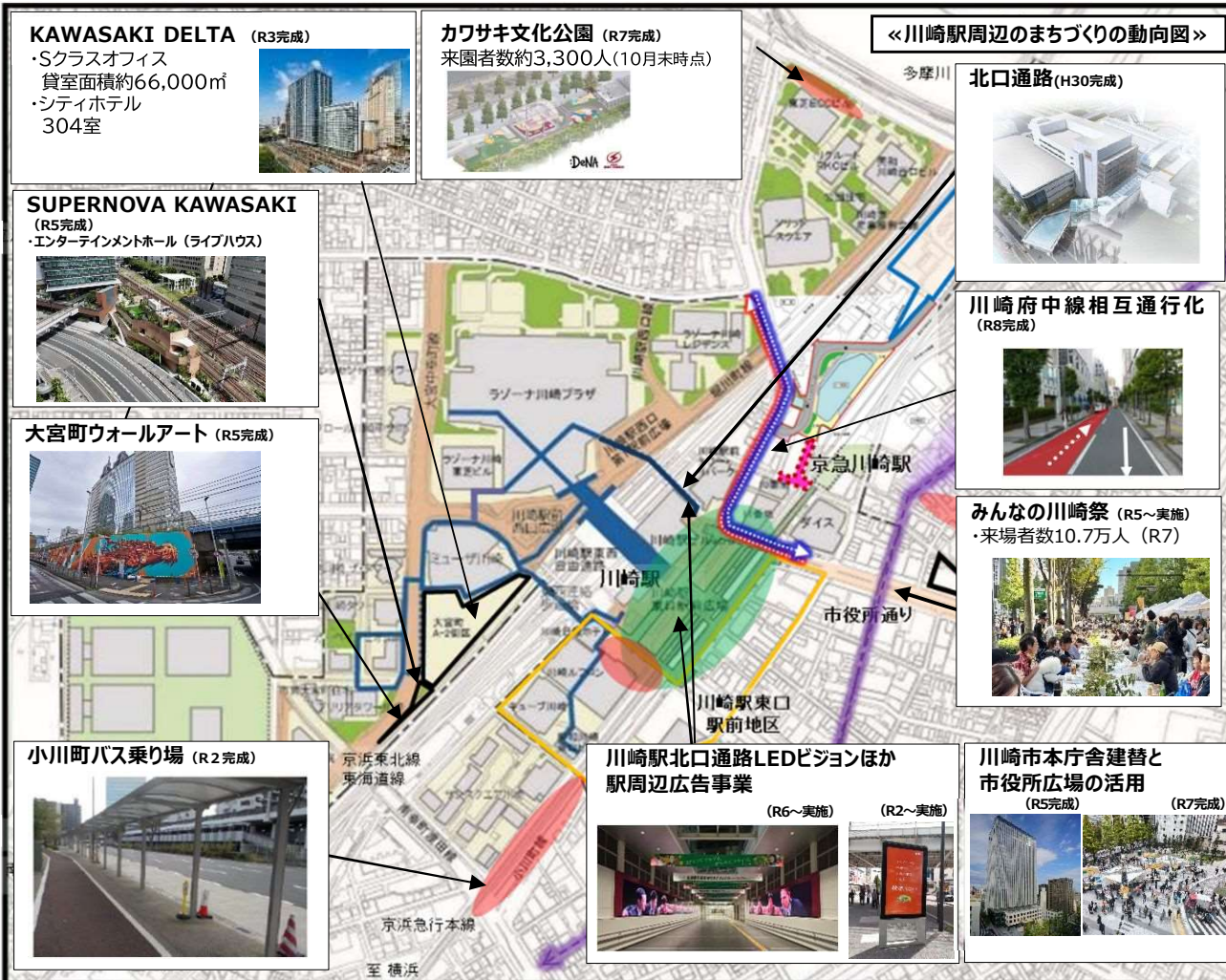
<図 整備計画の計画期間>

	R 7 (2025) 年度	R 8 (2026) 年度 ～ R 11 (2029) 年度	R 12 (2030) 年度 ～ R 15 (2033) 年度	R 16 (2034) 年度 ～ R 19 (2037) 年度
川崎駅周辺 総合整備 計画	(H28年度から R7年度)	(R8年度からR19年度)		
川崎市 総合計画	基本構想	新たな総合計画 基本構想 (30年程度を展望)		
基本計画	(H28年度から R7年度)	(計画期間12年間)		
実施計画	第3期 (R7年度まで)	第4期 (R8年度から R11年度)	第5期 (R12年度から R15年度)	第6期 (R16年度から R19年度)

2 駅周辺のまちづくりの状況

(1) 計画期間内での主な取組と効果

平成28(2016)年に改定した計画に基づき、民間活力を活かした土地利用の誘導や都市基盤整備、公共空間を活用したイベント実施による賑わい創出など、段階的に計画的なまちづくりを進めています。



■計画対象区域内16地点の路線価の平均 (単位: 千円/㎡)



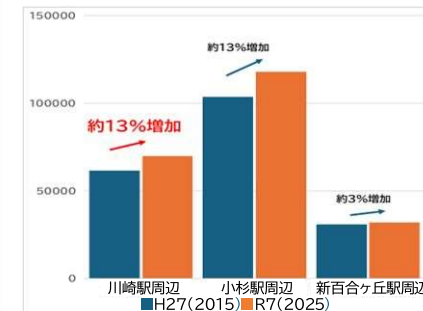
[出典:財産評価基準書(国税庁)]

■交通量調査結果の比較(単位:人)
(調査地点:JR川崎駅中央通路)



[出典:R7年7月・H30年6月実施交通量調査結果]

■市内各拠点駅周辺の人口変化 (単位:人)



[出典:川崎市町丁目世帯数・人口]

■公共空間の活用に期待する人の割合変化 (単位:%)



[出典:みんなの川崎祭のアンケート結果]

- ・ 計画に基づく、民間活力を活かした多様な都市機能の集積や交通環境の整備などにより、**路線価の上昇や人口の増加**など、定量的な効果が得られています。
- ・ 市制100周年や全国都市緑化かわさきフェア、東海道路川崎宿起立400年などを契機として、公共空間や既存ストックの活用、アートの蓄積等により、**賑わいの創出や回遊性が向上**しました。

2 駅周辺のまちづくりの状況

(2) 社会環境の変化

前回改定時からの主な状況変化

平成28(2016)年の計画改定から約10年が経過する中で、本市を取り巻く社会環境に変化が生じています。

- 少子高齢化・人口減少に対応できる持続可能な都市機能の維持・確保

官民連携



少子高齢化・人口減少による社会構造の変化を背景に、まちづくりの担い手を**官民が連携して実施**することにより、より効果的・効率的な都市機能の維持・確保につなげることが求められています。

- 市民の心の豊かさに繋がるウェルビーイング

ウェルビーイング



精神的な豊かさや健康までを含めて幸福や生きがいを捉える考え方が重視されてきています。また、地域の自然の豊かさや環境保全の状況、防災など都市や地域の生活環境は、地域の持続可能性とともに**地域住民の生活の質（ウェルビーイング）**を確保する観点からも重要です。

- 新型コロナウイルス感染症を契機とした新たな生活様式に対する対応

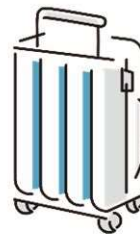
アフターコロナ



新型コロナウイルス感染症の影響により、都心オフィスなど「都市の過密」という課題が顕在化したことで、テレワークの導入促進やオフピーク通勤などこれまでの都市における働き方や住まい方が見直され、**居心地の良い都市空間づくり**が求められています。

- 外国人観光客への対応

インバウンド



観光庁は、「インバウンド拡大アクションプラン」において、「外国人観光客を呼び込む」という観点から更に視野を広げて、**インバウンド需要をより大きく効果的に根付かせる方策**を取りまとめています。**増加傾向にある訪日外国人への案内や資源の発掘**が求められています。

- デジタル技術の活用

DX



自動運転技術など、革新的な技術の進展は、社会や生活様式に大きな変化をもたらしています。市民サービスの質の向上を図るため、行政分野においてもデジタル化の取組を行うことが求められています。

- 歴史的な地域資源など既存ストックの有効活用

ウォークアブル



近年、まちなかにおいて多様な人々が集い、交流することのできる空間を形成し、地域が有する歴史的資源を活用しながら都市の魅力を向上させることが求められています。また、官民連携による**既存ストックを活用した歩きたくなる空間の創出**が求められています。

2 駅周辺のまちづくりの状況

(2) 社会環境の変化

関連計画の状況

平成28(2016)年の計画改定から約10年が経過する中で、駅周辺のまちづくりに関連性の高い計画の策定・改定が行われています。

■ 川崎市みどりの将来像の実現に向けた取組の推進



「みどりのKAWASAKI宣言」において目指すこととしている、「人と自然が共生する幸福な社会の実現」に向けて目標とすべき「みどりの将来像」をとりまとめており、「緑のつながり」「人のつながり」「みどりを活かしたまちづくり」の3つの柱が成長することにより、自然と都市が共に成長する持続可能な好循環を生み出し、生活の質・地域価値の向上や地域・地球環境課題の解決につなげていくこととしています。本計画にも反映し、取組を推進します。



[自然と都市が共に成長する持続可能な好循環 イメージ図]

■ 川崎市地域公共交通計画などによる新たな交通技術等への対応とその基盤づくり



高齢化や人口減少、ICTを活用した新たなモビリティの普及、脱炭素社会へ向けた動きなどの社会環境の変化を踏まえ、身近な地域交通などに係るさまざまな交通課題や、環境課題に対応するとともに、市民の暮らしやすさと移動しやすさを組み合わせた持続可能な交通環境の形成及び環境に配慮したまちづくりを進める必要があります。



[自動運転バス(川崎市資料)]

■ かわさき観光振興プランなどによる川崎のありのままの魅力に光をあて、住む人・訪れる人が共に楽しい”川崎らしい観光”の推進



観光を本市の活力創出・地域経済の基盤強化・市民の川崎への愛着・誇り(シビックプライド)の醸成に資する基幹施策として位置づけ、市民・事業者等との共創による「川崎らしい観光」の確立を目指していきます。



[川崎新! アリーナシティ・プロジェクト 提供:(株)ディー・エヌ・エー]

■ 社会環境の変化等のキーワード



前回改定時からの主な状況変化



関連計画の状況

2 駅周辺のまちづくりの状況

(3) 駅周辺のまちづくりの状況

平成28(2016)年の計画改定から約10年が経過する中で、駅周辺のまちづくりの状況に新たな動きなどが出てきています。

■①新たな開発動向への対応

大型複合施設(KAWASAKI DELTA)や文化・スポーツ施設(カワサキ文化公園、SUPERNOVA KAWASAKI)などが整備され、さまざまな都市機能の集積が進んでいます。このような中で、「カワサキ アリーナシティ プロジェクト」や京急川崎駅西口地区第一種市街地再開発などの新たな開発計画が公表されたことから、これらの機会を最大限に活かし、引き続き、都市の魅力発信と利便性を高めながら、賑わいを創出するまちづくりが必要です。

<カワサキ アリーナシティ プロジェクト>



[提供:㈱ディー・エヌ・エー]

<京急川崎駅西口地区第一種市街地再開発>



[川崎市資料]

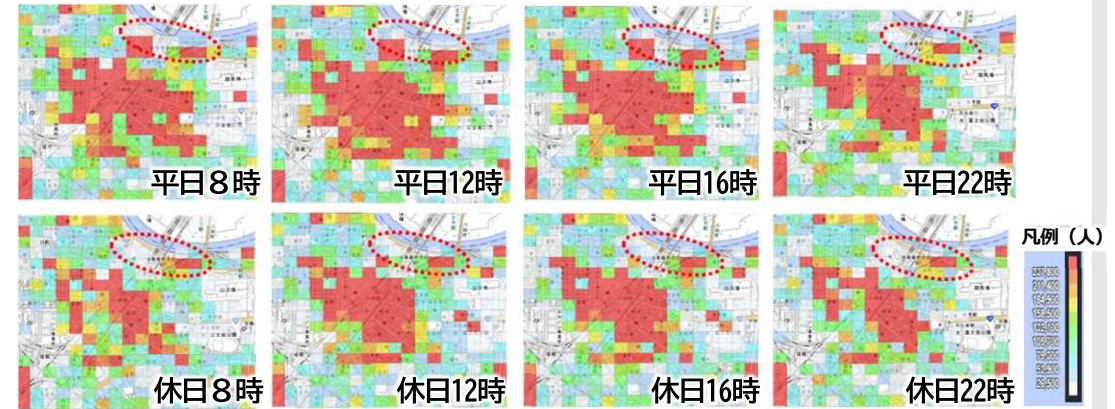
■②護岸整備とあわせた河川活用

川崎駅周辺の多摩川河川敷は、駅至近に位置するものの、そのポテンシャルを活かしきれておらず、多摩川河川敷の滞留人口は、全時間帯で低く、まちとかわの連携による新たな賑わいの創出や回遊性の向上に向け、国の護岸整備の機会を捉えたアクセス性の高い動線や、多摩川などの自然を活かした空間づくりが必要です。

<低水護岸整備の進捗状況>



<川崎駅周辺の時間帯ごとの滞留人口分布(令和6(2024)年)>



[出典:RESAS地域経済分析システムより川崎市作成]

■③公共空間の更なる活用

国のウォークブル推進の考え方を踏まえ、地域の住民や事業者など官民が連携した公共空間の活用に向けた取組を継続し、安全で快適な歩行空間やベンチ・緑化・電源など滞留を促す空間を充実させることで、賑わいと居心地の良い都市環境を整備することが必要です。

<ルフロ前広場>



<川崎駅北口通路LEDビジョン>



<みんなの川崎祭>



<稲毛公園カンパイビアデイ>



[すべて川崎市資料]

2 駅周辺のまちづくりの状況

(3) 駅周辺のまちづくりの状況

■④地域資源の活用

旧東海道や若者文化のアートなど多様な地域資源を活かし、歴史や文化を感じながら歩いて楽しめる空間を整備し、インバウンド対応を含めたウォーカブルな都市環境の整備を進める必要があります。

<東海道の歴史と文化を活かした取組>



<ウォールアート>



<かわさきミュージーラルアートさんぽ (デジタルスタンプラリー)>

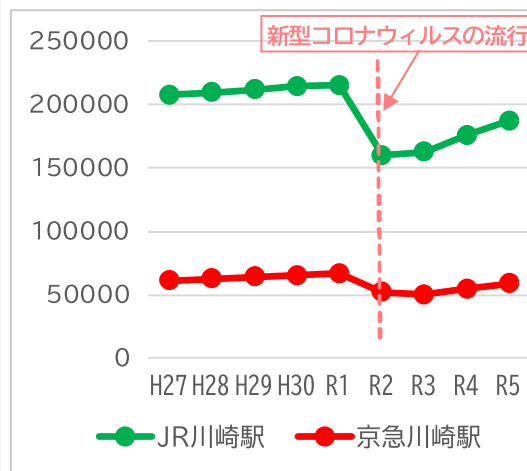


[すべて川崎市資料]

■⑤アフターコロナを踏まえた社会変容への対応

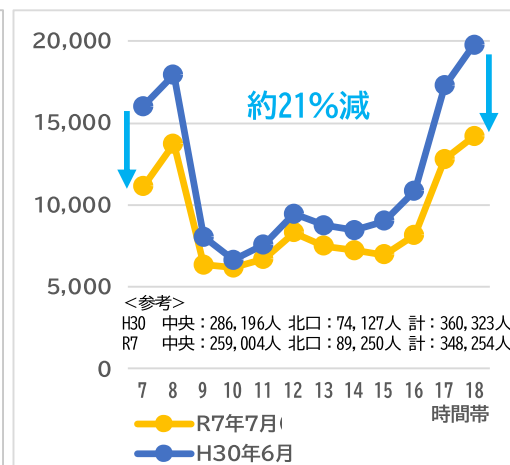
JR川崎駅・京急川崎駅の乗車人員は回復傾向にはあるものの、以前の水準には戻っていません。また、テレワークやオフピーク通勤などの働き方の多様化により、交通量の平準化が図られつつあります。こうした変化を踏まえ、新しいライフスタイルに対応した持続可能なまちづくりが必要です。

<川崎駅の乗車人員（1日平均）>



[出典：川崎市統計書]

<交通量調査結果の比較>
(川崎駅中央通路)



[出典：R7年7月・H30年6月実施交通量調査結果]

■⑥交通環境の整備

バス運転手不足が深刻化しているなど、公共交通を取り巻く社会環境の変化に対応するため、電車・バス・自転車など多様な手段を活用しやすく誰もが移動しやすい交通環境を整える必要があります。

<自動運転バス>



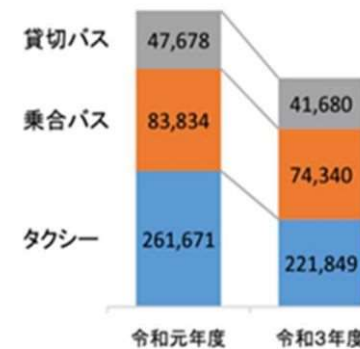
[川崎市資料]

<市内主要駅における端末交通手段の割合>



[出典：川崎市統計書及びパーソントリップ調査]

<全国のバス・タクシーの運転者数の推移>



[出典：国交省資料]

2 駅周辺のまちづくりの状況

(4) 市民意見等の把握

本計画の改定にあたり、より魅力ある広域拠点の形成に向けて、専門的な知見を有する学識経験者へのヒアリングを行うとともに、市民ニーズの把握のために、駅周辺で開催されたイベントの機会にあわせて実施したシール投票や、川崎駅周辺の町内会・自治会、商業関係団体等へのアンケート調査を行いました。これらの内容も参考にしながら、計画改定にあたっての主な視点を整理しました。

概要

- ①「学識経験者」へのヒアリング
実施時期：令和7年5月・10月/2人
- ②「川崎駅周辺の町内会・自治会」へのアンケート調査
実施時期：令和7年11月～12月
対象：川崎駅周辺の川崎区内・幸区内の町内会
※JR川崎駅から半径1km以内の町内会・自治会を対象として実施
- ③「川崎駅周辺の商業関係団体」へのアンケート調査
実施時期：令和7年12月
対象：川崎駅広域商店街連合会、幸商店街連合会、十店会、川崎商工会議所
- ④「みんなの川崎祭」でのシール投票
実施時期：令和7年11月2日（日）/回答：約450人
- ④「水曜ナイトライブ in LAZONA」でのシール投票
実施時期：令和7年11月12日（水）/回答：約100人
- ⑤「LoGoフォーム」を活用した市民等へのアンケート調査
実施時期：令和7年12月～令和8年1月

①学識経験者

まちづくり分野に精通し、施策検討に必要な視座を持ち、これまで当初計画策定時（平成18（2006）年）や改定（平成28（2016）年）にあたり有識者として意見をいただいていた経過を踏まえ、川崎駅周辺に最も精通している有識者（2名）に、ヒアリングを実施しました。

▼東京科学大学 中井 検裕 名誉教授

- ・新たなモビリティのあり方や走行空間について、検討したほうがよい
- ・新たなモビリティ等の導入状況を踏まえた交通環境のあり方を検討したほうがよい
- ・地域の担い手づくりについては、当面は都市再生推進法人化を目標とすべき。アリーナの機会を捉えるなど、民間に公共貢献を検討してもらい、民の力をまちづくりに活用すべき。行政先導から民間活力活用へシフトすべき

▼早稲田大学 理工学術院 有賀 隆 教授

- ・河川敷のオープンスペースは、非常に貴重な空間資源であり、川崎は、駅直近に河川敷があるため、具体的にどのような動線で有効的にまちとかわを繋げるかという部分は重要なキーワードであり、多摩川とまちの連携について整備計画に盛り込むことは良い
- ・JR川崎駅、京急川崎駅周辺エリアにおいて公共的なオープンスペースが不足している。再開発事業と連携した一体的な質の高いオープンスペースの創出が重要

2 駅周辺のまちづくりの状況

(4) 市民意見等の把握

②市民意見(町内会・自治会等)

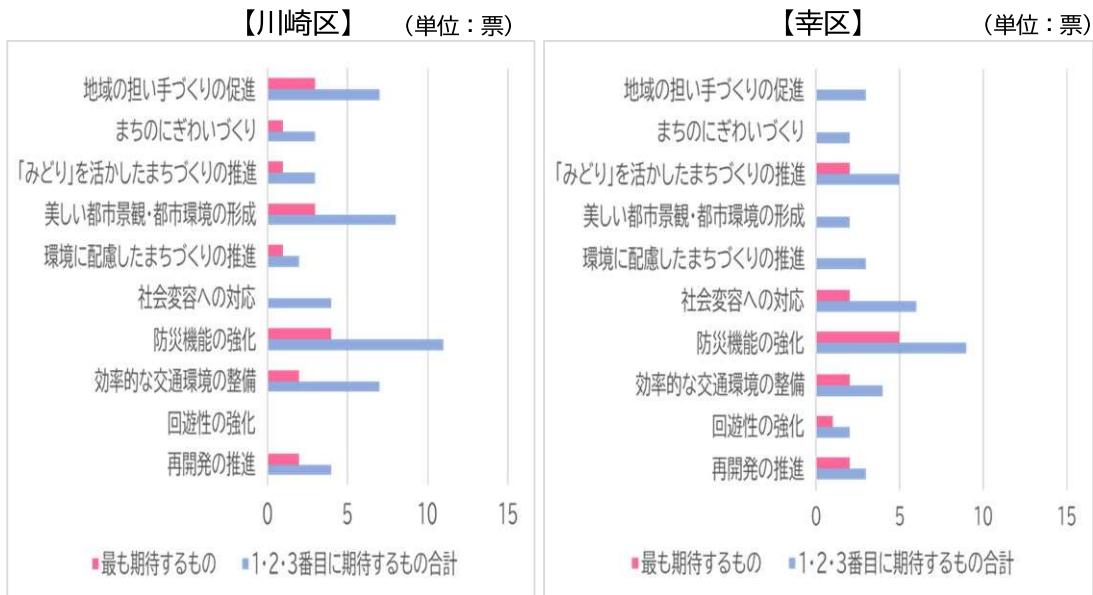
○川崎区連合町内会

- すべての歩行者が安全、快適に駅の東西を往来できるようにするとともに、駅周辺の魅力や利便性の向上、ひいてはJR川崎駅東口の活性化につながるよう、引き続き川崎駅南口改札の新設等による駅周辺地区の更なる回遊性の向上を要望いたします。
- 新アリーナでの試合やイベント等の開催時には、多くの来場者が見込まれ、周辺地域、住民の安全確保が大きな課題だと考えています。地元地域が安全で活気のあるまちとするためにも、着実な安全確保策等を要望いたします。

②「川崎駅周辺の町内会・自治会」へのアンケート調査(川崎区・幸区)

【アンケート内容】

■ 「川崎駅周辺の今後のまちづくり」に期待することについて



○幸区連合町内会

- 周辺の大規模事業所においては、従業員の通勤をJR川崎駅と尻手駅に振り分けるなど駅の混雑緩和に向けた取組を行っているところですが、抜本的な対策となる川崎駅南口改札の設置が必要となっています。
- すべての歩行者が安全に往来できるよう、「川崎駅周辺総合整備計画」で平成30年度からの取組とされている「JR川崎駅南口改札の必要性に関する調査・検討」を推進の上、早期に川崎駅南口改札を設置していただくよう引き続き要望します。

【主な意見】

再開発の推進

- 京急川崎駅周辺ではアリーナや再開発等が進んでおり、今後のまちの変化が楽しみである
- 京急川崎駅周辺のまちづくりに期待

効率的な交通環境の整備

- 幸区から本庁舎等の東口方面へ行くのが、高齢者にとっては大変不便な状況のため、より効率的で利用しやすい交通手段の整備に期待

まちのにぎわいづくり

- 川崎駅周辺でたくさんのイベントが行われ、川崎のまちがにぎやかになることに期待

地域の担い手づくりの促進

- 民間活力を大いに活用して品格のある川崎駅周辺づくりに期待

社会変容への対応

- 増加傾向にあ訪日の外国人にもわかりやすい対応が求められていると思う

環境に配慮したまちづくりの推進

- 現在の異常気象の原因とされる、地球温暖化対策として環境配慮の視点は必要だと思う

「みどり」を活かしたまちづくりの推進

- みどりや花をもっと増やしてほしい

美しい都市景観・都市環境の形成

- 不法投棄、たばこの吸い殻・ガム等のポイ捨て等の啓発活動を行い、川崎の玄関口にふさわしいきれいなまちづくりを期待

防災機能の強化

- 風水害に対する安全なまちづくりに期待、避難所が不足しているように感じる

2 駅周辺のまちづくりの状況

(4) 市民意見等の把握

③商業関係団体

○「川崎駅周辺の商業関係団体」へのアンケート調査

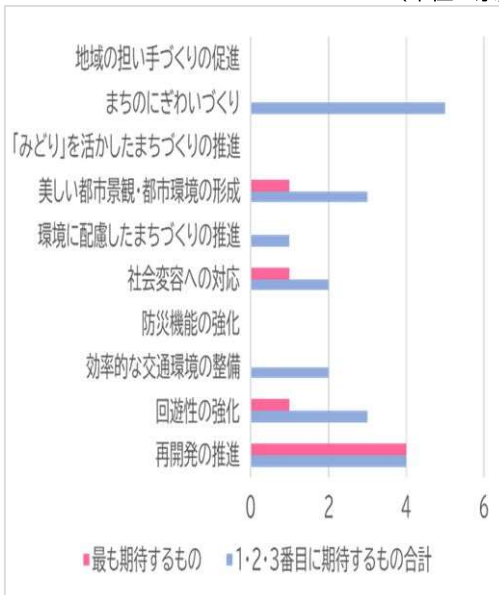
【アンケート内容】

■ 「川崎駅周辺の今後のまちづくり」に期待することについて

【アンケート結果】

- “再開発の推進”や“まちのにぎわいづくり”など、まちの活性化に期待する声が多い。

(単位：票)



【主な意見】

再開発の推進

- 京急川崎駅周辺地区の再開発により、商業ビルや新アリーナの建設が進むことで、地域の魅力が高まり、商業・交流機能の強化による経済活性化が期待される

- シティホテルの整備に期待している

まちのにぎわいづくり

- 地域の事業者が主体的にまちづくりに参画し、来訪者の視点を踏まえた取組を進めることで、川崎ならではの魅力を発信し、まちのにぎわいを創出していくことが重要だと考える
- 音楽やスポーツも楽しめる街である点が川崎の魅力だと思う

回遊性の強化

- 車だけではなく、住民・歩行者にも道路を一部開放する機会を作ること、地域の利用価値を高め、インバウンド客にも賑わいを共有できる

④市民意見(多様な意見聴取)

(1) 「みんなの川崎祭」でのシール投票

回答人数：約450人

(2) 「水曜ナイトライブinLAZONA」でのシール投票

回答人数：約100人

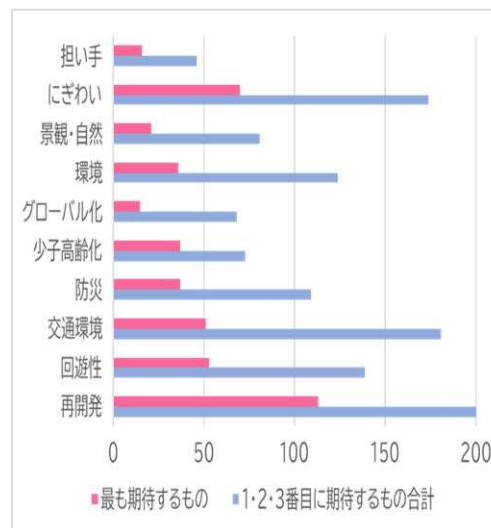
【アンケート内容】

■ 「川崎駅周辺の今後のまちづくり」に期待することについて

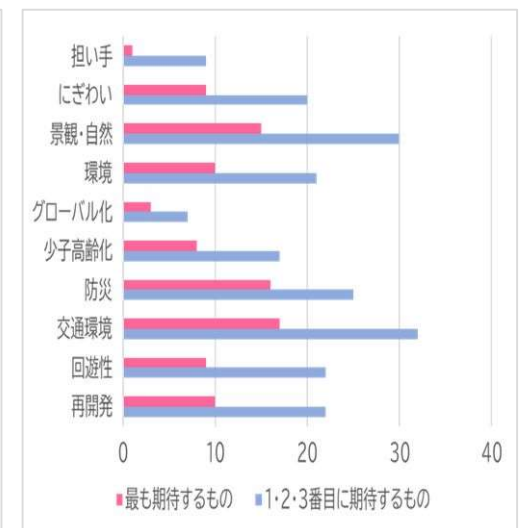
【アンケート結果】

- “再開発の推進”、“交通環境”、“にぎわい”、“景観・自然”に期待する声が多く、開発等が進むことで生まれる賑わいや多摩川等の地域資源を活かしたまちづくりに期待を寄せられている。

【みんなの川崎祭】(単位：票)



【水曜ナイトライブ】(単位：票)

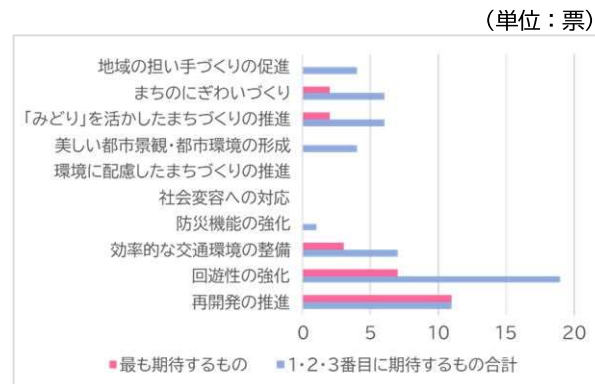


2 駅周辺のまちづくりの状況

(4) 市民意見等の把握

⑤市民意見(多様な意見聴取)

○「LoGoフォーム」を活用した市民等へのアンケート調査



【主な意見】 再開発の推進

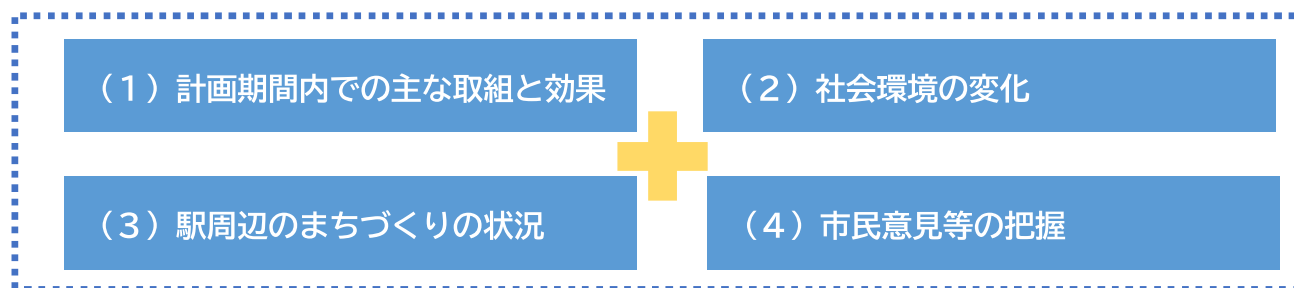
- 京急川崎駅西口周辺はいつも人が少ないと感じる。再開発が完了すれば、人の流れも増えて、商店の商売も良くなるのではないか

まちの担い手づくり

- まちなかの点と点を繋ぎ、エリアを面的にブランディングしていくプレイヤー（地域の担い手）の必要性を感じるため

(5) 計画改定にあたっての主な視点

計画期間内でのこれまでの取組の検証を行うとともに、社会環境の変化や駅周辺のまちづくりの状況を踏まえ、市民意見等の把握を行うことで、計画改定にあたっての主な視点を整理しました。



計画改定にあたっての主な視点

A 多様な都市機能集積とまち全体の回遊性の向上

B 多摩川河川敷等の「みどり」の活用と市街地との連携

C 道路・公園等、公共空間の有効活用

D 旧東海道等の地域資源を活用したウォーカブルなまちづくり

E まちづくりの担い手となるエリアマネジメントの組成

F BRT・自動運転の推進などの新たな技術への対応

3 目指す市街地像・まちづくりの基本方針と基本施策等

(1) 基本方針・基本施策等の体系

目指す
市街地像

本市の玄関口にふさわしい多様な魅力と活力にあふれたまち 川崎
～官民連携による更なる成長を支える「核」づくりとまちを支える「人」づくりを通じた持続可能なまちを目指して～

まちづくりの基本方針	まちづくりの基本施策	施策課題
①魅力と活力ある広域拠点の形成	1 再開発の推進	(1)魅力と活力を高める多様な都市機能の誘導集積 (2)駅前等の施設などの機能更新と高度利用
②地区内を往来しやすい ウォーカブルなまちづくり	2 回遊性の強化	(3)まちの一体的な回遊性の強化 (4)東海道の歴史と文化を活かしたまちづくりの推進 (5)誰もが安全・安心に通行でき、居心地のよく歩いて楽しいウォーカブルな環境の整備
③安全・安心に過ごせるまちづくり	3 利用しやすい交通環境の形成	(6)交通環境の整備 (7)荷さばき対策の推進 (8)自転車や新たな交通モードと歩行者が安全に通行できる環境の整備
④人と環境にやさしく「みどり」を 活かした持続可能なまちづくり	4 防災機能の強化	(9)帰宅困難者対策等の推進 (10)密集市街地の改善 (11)空きビル等の改善
⑤个性的で賑わいのある まちづくり	5 社会変容への対応 (少子高齢化・グローバル化等)	(12)ユニバーサルデザインの推進 (13)国際化を見据えた都市拠点の形成 (14)多言語による案内・情報発信の充実
⑥市民協働・共創のまちづくり	6 環境に配慮したまちづくりの推進	(15)脱炭素社会を目指したまちづくりの推進 (16)DX等を活用した持続可能なまちづくりの推進
	7 美しい都市景観・都市環境の形成	(17)駅周辺の環境美化の推進 (18)地域資源等を活かした広域拠点にふさわしい健全な街なみづくり
	8 「みどり」を活かしたまちづくり の推進	(19)まちの価値向上につながる「みどり」空間整備・活用 (20)多摩川の自然、公園、民有緑地など、生物多様性、緑のつながりに配慮したまちづくり
	9 まちの賑わいづくりの推進	(21)既存ストックを活用した賑わいの創出 (22)賑わいと活力に満ちた身近な商店街の形成 (23)まちづくりと連携した多様な分野の融合による大規模イベントの開催
	10 地域の担い手づくりの促進	(24)エリアマネジメント団体の組成による持続可能なエリア価値の維持・向上

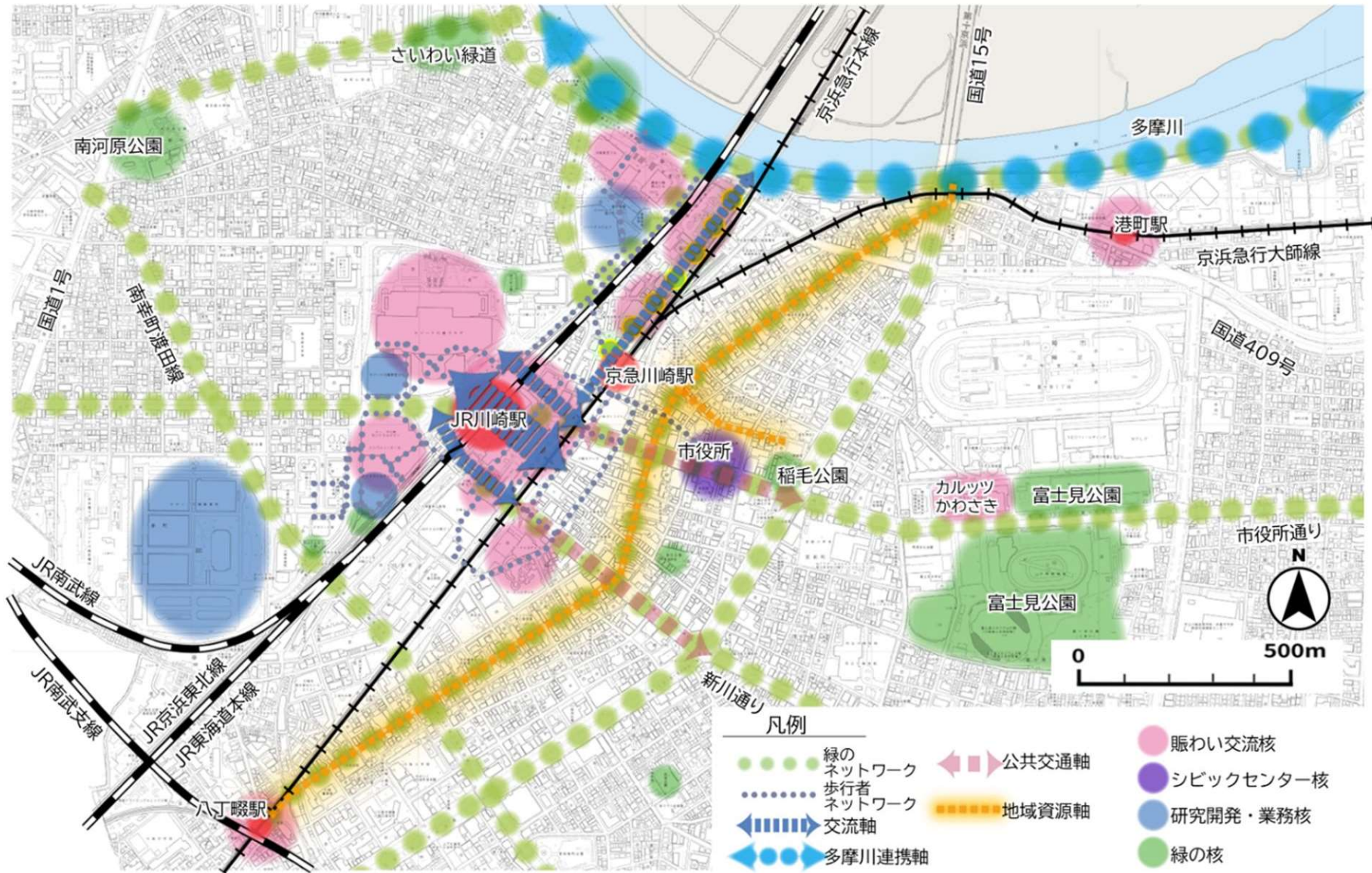
改定にあたっての主な視点等を
踏まえて概ね継承

反映

反映
改定にあたっての主な視点等を踏まえて一部変更

3 目指す市街地像・まちづくりの基本方針と基本施策等

(2) ゾーニング図



3 目指す市街地像・まちづくりの基本方針と基本施策等

(2) ゾーニング図

主な構成要素

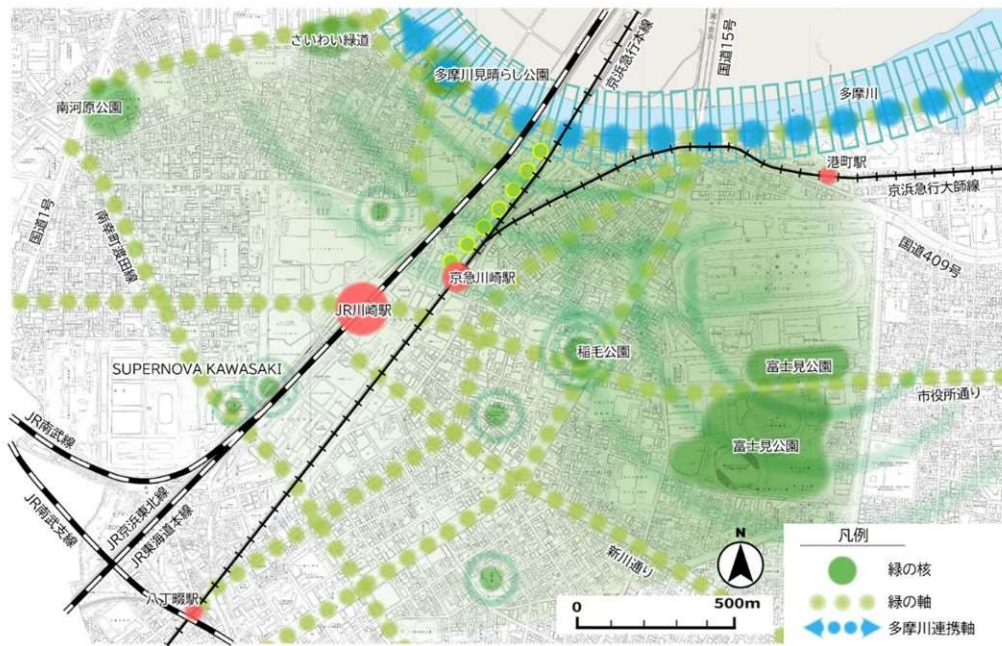
■主な構成要素(みどり)

- 川崎駅周辺に存在する自然資源である多摩川や富士見公園などの公園や、街路樹等の既存の緑との繋がりに配慮し、生物多様性の増進や緑の核・軸とのつながりを活かした良好な都市環境を形成し、多摩川の水辺環境を軸に、まちなかへと緑のつながりを広げていきます。
- 公園緑地、オープンスペースでの市民等の協働・共創の取組を通じて、未来につながるグリーンコミュニティの形成を図ります。

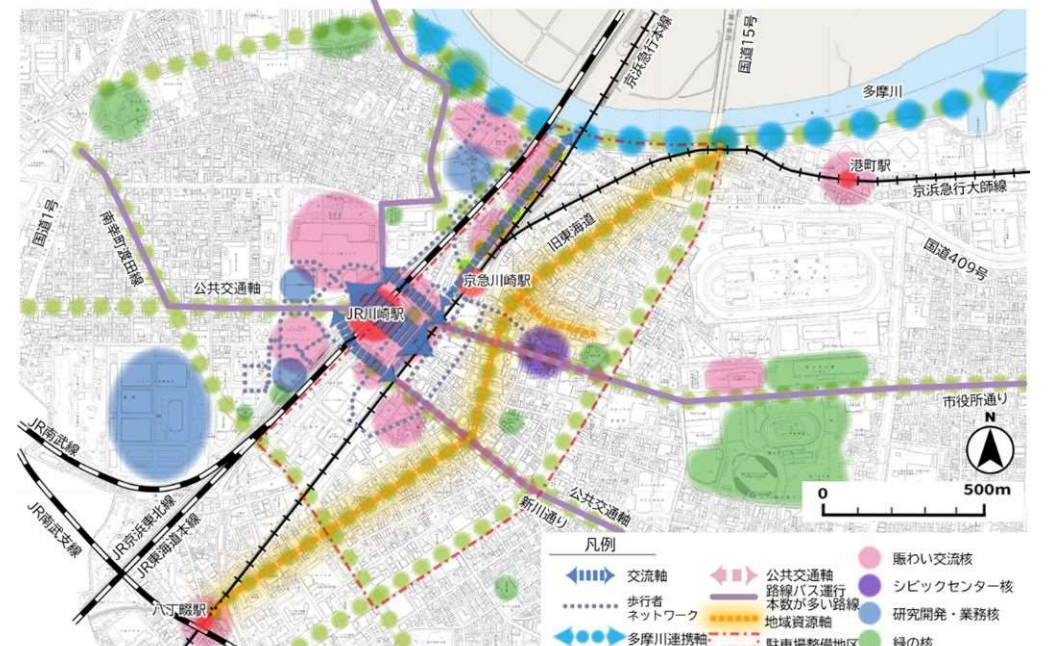
■主な構成要素(歩行者空間、道路空間)

- 駐車場整備地区内の公共交通軸を中心に路上駐車対策等を行うことで、公共交通の利便性・速達性の向上を図ります。
- 既存デッキや地下空間等を活用し、基盤再編等の機会を捉えて、快適な歩行者空間の形成に取り組みます。
- 多摩川や緑道等の自然資源を活用しながら、駅東西から多摩川へのアクセス動線を確保します。

<主な構成要素(みどり)>



<主な構成要素(交通ネットワーク)>



3 目指す市街地像・まちづくりの基本方針と基本施策等

(2) ゾーニング図

主な構成要素

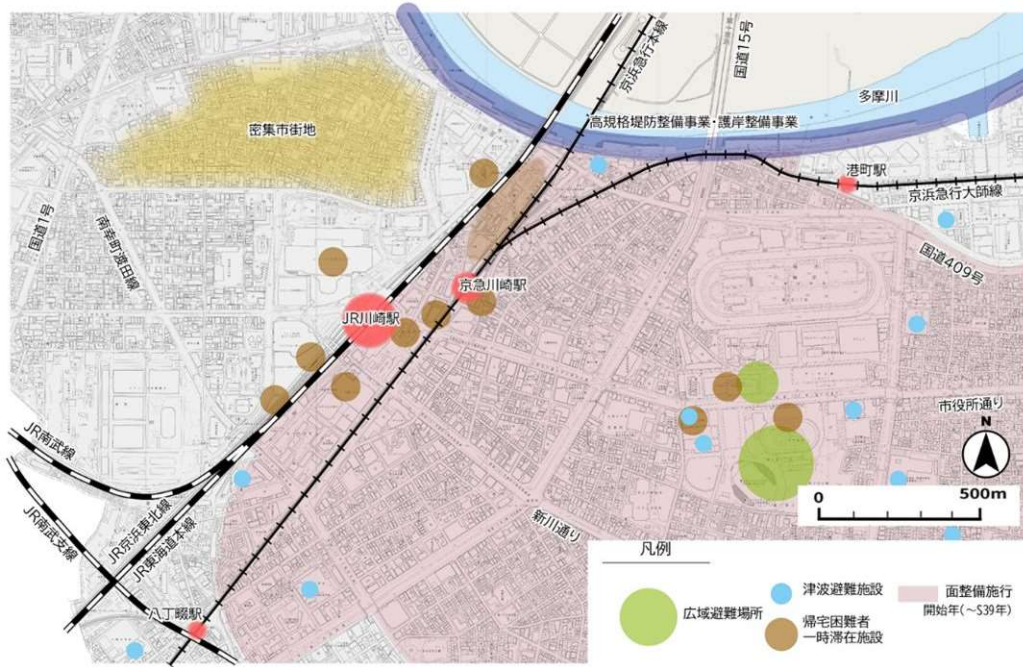
■主な構成要素(防災)

- 川崎駅周辺には、帰宅困難者一時滞在施設等が点在しており、発災時における適切な避難誘導が求められるとともに、民間事業者を含めた滞在者の安全確保や混乱の抑制に向けた取組を推進します。
- 駅周辺では、過去の戦災復興区画整理事業から時間が経過しており、低未利用地も散見されることから、建物更新などの期間を捉えて防災資源としての活用も視野に入れた取組を推進します。

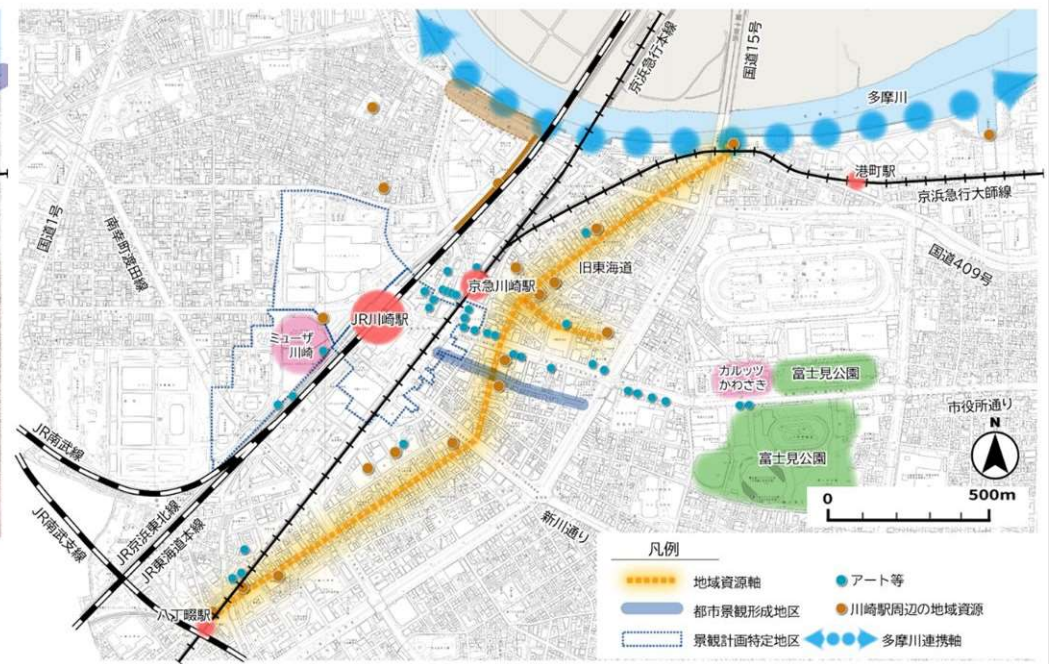
■主な構成要素(地域資源)

- 川崎駅周辺には、多摩川や東海道川崎宿など、本市を代表する地域資源が点在するとともに、若者文化であるミュージカルアートの蓄積も進み、観光や写真撮影スポットが点在しており、これらの地域資源を活かした地域の魅力を発信する取組や、当該資源を含めた公共空間を有効に活用し、新たな魅力につながる取組を推進します。

<主な構成要素(防災)>



<主な構成要素(地域資源)>



3 目指す市街地像・まちづくりの基本方針と基本施策等

(2) ゾーニング図

主な構成要素

■主な構成要素(身近な商店街)

- 川崎駅周辺には、銀柳街や銀座街をはじめとした身近な商店街が形成されています。駅周辺の商店街の魅力や活力を活かし、周辺のまちづくりやイベント等と連携したまちの賑わいづくりや回遊性の向上などの取組を推進します。

<主な構成要素(身近な商店街)>

